

# 地域と調和し、繋がる輪。

## 福祉喫茶ハーモニー

ハーモニーは調和という意味。障がい者と住民、地域が調和できる喫茶店が町内にあります。

### 町

の芸術文化拠点として、数々のドラマが生まれる文化会館コピスみよし。その施設内にある「福祉喫茶ハーモニー」。地域と繋がる輪、調和という想いを込めて名付けられたこの喫茶店では、障がいのある10人が職員7人と共に働いています。それぞれの個性に応じて、開店準備や

メニュー貼り、調理補助などの業務を分担。自立促進、社会への適応力などの能力をここで養います。

### 憧れのウェイトレス

入り口の扉を開くと同時に「いらっしゃいませ。こちらの席にどうぞ」と笑顔で案内するのは知的障がいのある山田美穂さん(47)。その

ハキハキと動く姿からは、障がい者であることを感じさせません。

「ウェイトレス業務は障がいのある人にとって、憧れの職種なんです」と来客のレジ打ちを終えた、店長の相澤美穂さん(44)が言います。

「障がい者はどちらかというところ、優遇やサポートを受ける側。はじめは接客の意識が低く、お客さんが逆に気を遣ってくれる場面が多くありました」。これではお客さんが足を運ばないばかりか、何のために働くのか分からない。そこで対人への配



落ち着いた雰囲気のカフェ内。各テーブルにはお花が添えられ、お客さんの心を和ませる。ピカピカの床は、スタッフが丁寧に磨き、清掃している証拠。

### 赤ちゃんの椅子をサッと用意できる気配り

優遇を受ける立場からする側へ。次第に相手の気持ちを考えて、自発的に行動するように変化していきま

す。「赤ちゃん連れのお客さんが見えると、サッと赤ちゃん用の椅子を用意するなど、お客さんに合わせて、もてなす方法を覚えるようになりました」と話す相澤さんの目線の先には、「お水はいかがですか」とテーブルを回り、給水をする山田さんの姿がありました。

「ひとりでできることが、たくさんあったんだな、と気がつきました」

んは言います。

### 食が繋ぐ地域の輪

ハーモニーの日替わりランチは、みよし野菜を使った料理が中心。「地域の皆さんに愛されるお店にしたいから、地産地消にこだわります」と話す相澤さん。三芳町への愛情、障がい者と住民が気軽にふれあえるように、町のキャラクター「みらいくん」の「のぞみちゃん」が焼印された今川焼「のぞみ焼き」や「のぞみらサブレ」などの商品を開発し、食を通じた地域の輪を広げています。

障がい者と住民、地域が「調和」する福祉喫茶ハーモニー。飲み干したはずのコップには、いつの間にか、水が注がれていました。



福祉喫茶ハーモニーで働く皆さん。前列が障がいのあるスタッフ、後列が職員。後列右端でスタッフの肩に手を添えているのが店長の相澤美穂さん。各自が好む色のエプロンを着用。ハーモニーの意味は「調和」。最高のサービスを提供できるようにいつもスタッフは一丸となって仕事に誇りを持ち、取り組んでいる。



- 1 開店前にテーブルを丁寧に拭く矢島和也さん。踊ることが大好きで、嬉しいときは飛び跳ねて感情を表現する。
- 2 ハーモニーのキャラクター「なごみ」ちゃんをあしらったグッズ。デザインは西川千華子さんが考案。
- 3 松島有玲奈さん。番号付けされたテーブルに間違いなく、しっかり配膳できるのは、培ってきた経験と自信だ。
- 4 クリームソースを作る中釜みさ江さん。スタッフがサポートする姿は「師弟関係みたい」と厨房が和む。
- 5 ワゴン販売用のコロッケが入った容器に、ソースを貼る保坂絵里さん。三芳町庁舎の各フロアへお弁当のメニュー配布も行う。



**相澤店長おすすめ  
オリジナルメニュー**



毎週金曜日は、三芳町の野菜を存分に使った「みよしっ子カレー」を販売しています。また、お持ち帰りができる「のぞみらサブレ」や火・金曜日限定販売の「のぞみら焼き」など、三芳町のキャラクターを使い、地域活性化にも繋がっています。

※すべて税込価格

**みよしっ子カレー**  
600円 ※金曜限定販売



**のぞみらサブレ**  
120円



**のぞみら焼き**  
100円  
120円





絵が得意な  
西川さん

**福祉喫茶ハーモニー DATE**

住所 三芳町藤久保 1100-1 コピスみよし内  
営業時間 11:00 から 14:30 (土日祝、定休日)  
☎ 090-1843-1366



笑顔で接客をする山田美穂さん。憧れのウェイトレスの仕事ができることを誇りに思い、おもてなしの心を大切にしている。すると相手も自然と笑顔がこぼれる。